

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

日刊 動力労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

No. 4970
99.6.1

次期ダイヤ改に向け、 千葉支社交渉

3

各駅の職場諸要求について
は、5月7日・8日・14日
に予定 (各日も 10時～18時)

輸送混乱時の取り 扱いについて確認

(四九六六号よりつづく)

組 台風等の異常時や輸送混乱時

では、この間運転士の送り込み
や出勤の取り扱いについてさま
ざまな問題が発生してきた。昨
年の台風時には出勤・送り込み
にはタクシ-の使用も含めて行
なう旨の回答を行なっているが、
改めて千葉支社の考え方を明ら
かにしてもらいたい。

会 台風や降雪時の出勤にあつ
ては、最寄駅から運転区等に連
絡を入れて指示を受け、タクシ
-の手配を行い、協力しながら
出勤してもらいたい。

組 これまでも、区長や助役など
が変わると扱いが変わることが
ほとんどだったが、今後このよ
うなことがないようにキチンと
した体制をつくるべきだ。

会 当直助役などの会議の中で徹
底させるようにしていきたい。
現場長会議は昨年末に行い、こ
の中でも輸送混乱時の取り扱い
については話してある。

組 輸送混乱が想定される場合、
区から「早く出てきてくれ」と
いう呼び出しが行なわれること
があるが、この場合は、

会 時刻を明確にしないで早め出
勤する場合、区に到着後速やか
に労働者働時間にカウントすべ
きだと考えている。点呼も取ら
ずに放置することは好ましくな
いと考えている。

組 予備勤務の場合、本人に連絡
が取れずに出勤した時点で「〇
〇時から勤務」だとして勤務解
放することがあったが、千葉支
社としてどのように取り扱うの
か。

会 予備で出勤してもらい、次の
勤務まで時間がある場合、自宅
等が近く本人が帰ってから再度
出勤してもらえる場合は、次の
出勤から勤務として取り扱う。
しかし、本人が帰れない場合は、
そのまま労働時間になると考え
ている。いずれにしても、出て
きてもらった上で、本人の希望
も勘案して取り扱いをおこなっ
ていきたい。

組 食事の問題についても、駅や
詰所に置くように対処すべきだ
と思うが。

会 この間である程度確立できて
いると考えている。食事は個人
で取ってもらうのが基本だが、
輸送混乱時で対処できない場合
などには軽食程度は用意するよ
うにする。

五七才出向を中止

組 年令構成の歪みや業務上の問
題が多数発生していることから、
五七才原則出向は止めるべきだ。
定年延長についてはどのように
考えているのか。

会 本社でも議論されており、五
七才についても「どうなのか」
という議論もある。しかし、会
社全体として余力を持ち、なお
かつ一七〇〇名程度の新採を今
後も行なうことを考えると、今

の対応しかないと考えている。
組 毎年の五七才到達者数は、
会 毎年二五〇人程度で、これが
今後一〇年間続くことになる。
組 問題は、出向になる本人が行
き先も分からず、不安になる場
面が相当にあるということだ。

会 厳しい状況だが会社として責
任をもって出向先を提示したい
と考えている。
組 最後の場面できちんとできな
いと会社としてどうしようもな
い。とくに、現場長から「相手
も選ぶ権利がある」などと言わ
れた者もある。現場長にも本人
への対応は身長にできるように指
導すべきだ。

また、出向先の労働条件等に
ついて現場長が全く知らずに本
人に提示しているが、最低限の
ことは説明できるように仕組み
をつくるべきではないのか。

会 分らない部分については、
柔軟に対応するようにしたい。
現場長にはアドバイスするよう
にしたい。

三〇五二Mの着線 変更を中止

組 三月から始めた三〇五二Mの
菅田駅二番線への着線変更につ
いては、現場長も危険と判断し
て指導を添乗させている。

会 支社総体で「不公平感をなく
す」という観点から行なったも
のである。
組 現場では危険と考えているい
るという事は、支社総体では

ないということだ。大綱から行
くと一二〇キロの下り込みから
三五キロポイントに入るとい
うことは、相当に恐いというのが
実感だ。

会 作業としてはそのようになる
と思うが、基本は信号・分岐速
度に則って作業を行なってもら
いたい。
組 それなら閉塞指示運転やA
S-1Pなど何もいらなくなっ
てしまふし事故もなくなつてし
ようが、そういうことではない
真剣に着線変更をやめるべき
会 二番線に固定させるかどうか
は、乗客の数によっても左右
されるものだ。

組 こんな危険なことに体を張
って中止を言えないことが問題
なのだ。現場としては「慣れた
危ない」と言つて、危険を感じ
ている。事故というのは分岐
起るものだ。三〇五二Mの
問題は、会社として判断したこ
ろがミスだ。認めて元に戻すべ
いだ。

会 当初の目的がなくなれば、
更なる可能性はある。
組 運転保安の問題で言えば、
客は何も言わないと思う。一
日から付けた看板が目に入る
ちは事故になることはないと思
う。動力千葉としても、運転保
安場重大な問題があることから
四月一五日以降安全運転闘争を
行なっているが、会社の今日の
対応からすると、今後も安全運
転闘争を行なうことを明らかに
しておく。

ないという事は、支社総体では